



学校だより ながや

令和元年度 第10号
令和2年 1月31日
横浜市立永谷小学校
校長 平野 好子

地域の中で、育つ、育む

副校長 大島 恵子

2月になります。早いもので、今年度も残り2か月を残すのみとなりました。永谷小学校に赴任して1年が経とうとしていますが、この1年を振り返って実感することは、子どもたちは本当に多くの方に支えられて成長しているということです。

先日、こんなことがありました。娘は中学1年生、昨年3月に小学校を卒業したのですが、この間小学校で開かれた地域のフェスティバルに出かけていきました。帰ってきた娘に「どうだった？」と聞くと「フェスティバルも楽しかったけれど、もっとうれしいことがあった。」という返事。娘の卒業した小学校の近くに八百屋さんがあります。入学してから6年間、登下校の際にお店の前を歩いてあいさつを交わしているうちに、八百屋さんのご主人も子どもたちの顔を覚えてくださるのでしょうか。その日も「あら、卒業した子たちだね。久しぶり。大きくなったね。」と声をかけてくださったそうです。

卒業した自分たちのことを覚えていて、声をかけてくれる大人が先生たち以外にもいる、そのことが娘にとっては、とてもうれしかったそうです。地域の中で温かく育てていただいているのだなど、親として私もうれしくなりました。

同じような温かいつながりが、永谷の地域にもたくさんあると思います。生活科や総合的な学習の中で、子どもたちが地域めぐりをしたり地域の方にお話を伺ったりする機会がたくさんありました。地域の方にお力を借りながら学習を進めていく中で、子どもたちは、永谷の地域について知るだけでなく、多くの人と関わり、交流を広げたり深めたりする喜びを感じたことと思います。学習の場面だけでなく、毎日の登校の際、学援隊の皆様を中心とした見守り活動で支えられていることは、子どもたちに、地域の中で守られ、大切に思われているという安心感をいただいています。

その他にも、たくさんつながりの中で、日々支えられて過ごしている永谷の子どもたちは本当に幸せ者だと思います。「1年生の時に、地域の方に、コマ回しのやり方を教えてもらったなあ。」「毎朝、学援隊の方が優しくあいさつをしてくださった。」「『ほのぼの』で、楽しいお話をたくさん聞かせていただいたな。」こうした温かな体験は、子どもたちが大人になっても、幸せな記憶として残ることを願っています。



子どもたちが、地域の皆様に支えられている「今」に感謝の気持ちをもって、充実した日々を過ごせるよう今後も支援して参ります。引き続き、皆様からの温かいご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。